（別紙4）　　平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2670700349		
法人名	メデカジャパン		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風　1F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19－1		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670700349&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530－0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様一人一人がゆったりとした時間や空間で職員とともに笑い楽しみ、また悲しみも一緒に感じられるように毎日を過ごして頂ける支援をしています。また、季節感が感じられるよう、食事や入浴、掲示板や居室などの写真や飾りを取り入れたり、イベントを企画したりして、そよ風で楽しく生活を送って頂けることにも力を入れて支援しています。センターの前で畑をお借りし、その季節に採れる新鮮な野菜を味わって頂いたり、緑いっぱいの環境を存分に感じて頂けるようにも努めています。これからも利用者様がご自分のペースで生活、毎日を過ごして頂けるよう、ご希望や要望を聞いたり、ご希望を聞きだせるような声かけの工夫など、職員間で情報共有をし協力しあって、ゆったりと自由な時間を過ごして頂くようにしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

五山の送り火の鳥居形を間近に見る嵯峨野の恵まれた環境に建つホームは、敷地に畑もあり利用者が過去長年培ってきた延長線上での暮らしを継続しています。自然な暮らしの中で些細なことにも選択肢を用意し利用者の思いを引き出す工夫がなされています。希望に添えない時は代替案を提案する等、出来ない事でも何か他に方法はないか常に試行錯誤を繰り返し、利用者の気持・目線に立った誠実な職員の支援によって成り立ってます。ケアによって利用者が大きく変化するということを実感する成果も出ています。また開設から8年が経ち地域とのつながりも積み重なって、五山の送り火や嵯峨祭、お松明式など京の歴史ある文化風習を利用者と共に育み慈しむ役割を担っています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

嵯峨野ケアセンターそよ風 （1F）

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には、そよ風憲章、理念を復唱します。地域とともに生きる私たちをという理念を心してご近所の方とお会いした時には、挨拶をさせていただいています。	毎朝、朝礼時に理念を唱和している。「地域とともに生きる私たち」という地域密着型サービスとしての独自の理念を作っている。自治会の役員を務めたり、行事の手伝いや積極的な声かけなど、常に自ら率先し地域に働きかけることで実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加させていただき、回覧板をまわさせて頂いている。消防訓練、敬老会、お祭り等に参加させて頂く。	近所に行事案内をを配布したり、祭りで神輿の担ぎ手をしたり、五山の送り火では護摩木販売の売り子の手伝いに参加している。玄関前休憩スペースでの吹奏楽演奏会には地域の人が立ち寄ったり、敷地内を地域の方が自由に通れるように普段から門扉を開放している。積極的なアピールの結果、年々地域との馴染みの関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域における認知症の方のご家族の、相談窓口として存在しており、その存在を周知して頂くようチラシを配ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	こちらからの報告がほとんどですが、意見などあれば取り入れるようにしている。	家族、社会福祉協議会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム職員が参加して、2ヶ月に1回開催している。収支報告やヒヤリハット報告、身体拘束・ケアプラン説明等、毎回趣向を凝らした議題を提供している。また、協力病院相談員が参加してターミナルケアについて等、医療面での話し合いも行っている。今後は、家族が多く参加できるように開催時間の見直しを考えている。	収支報告やヒヤリハット報告等、透明感を持って運営されていますので、会議録にもその後の対応改善結果も記入されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス事業者連絡会に出席している。	書類等の提出時に分からないことを担当者に尋ねたり介護相談員受け入れに応募したり、積極的に働きかけている。また、地域包括支援センターからの依頼を受けて、認知症講座の講師も務めた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむおえない場合を除き、しないよう取り組んでいる。居室のベッドで寝ていただくと転倒の危険性がある方を、リビングで寝ていただくようにするなど工夫している。	1階から3階まで館内を自由に移動でき、安全確保のため所在確認を各ユニットで連絡し合っている。また見守りを重視の為に、リビングの一角に衝立などでスペースを作り、注意が必要な方用のベッドを置いて休んでもらっている。やむを得ずベッド四点柵をする場合でも、話し合いを重ねて解除する時間を増やすように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修報告書などの議事録の回覧を見て、虐待に関する認識をたかめ防止に努めている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風 （1F）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している方もおられ、職員も制度利用の手伝いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に関してはセンター長より事前に十分説明、ご理解いただけるようしている、又、内容の大きな変更については臨時家族会も行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やアンケートなどで意見を聞く機会を設け、それを反映させている。	フリーダイヤルで法人に直接意見が言える体制がある。ホーム玄関に意見箱を置き、家族の訪問時や電話等で直接意見を聞いている。頂いた意見や要望は、職員に回覧し、会議で話し合いケアの場面で反映させている。また家族会も開催し、話し合う機会を持っている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議や個々からも意見や提案を受け入れ、内容に応じ、必要と思えるものは取り入れている。	月１回のユニット会議で職員から出された様々な意見をリーダーが管理者に提案し、管理者は実践できるものを判断し、全体会議で伝えている。会議に出席できない職員は前もって議題を提出している。必要に応じて個別面談もあり、近畿支社長に話を上げる仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議で話し合ったり、個別面談を行ったり環境整備の動きみられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践しています。口頭で指導したり、内外の研修を行ったり複数の機会を持てるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダークラスの一部職員のみで幅広くはできていない。		

嵯峨野ケアセンターそよ風 （1F）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様や関係する方たちからも情報を得て、安心してサービスを使っていただけるよう、声かけやケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に何度も面談を行い、家族様の希望や不安の解消をはかっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人様、家族様の現在の状態、要望を聞かせていただき、他のサービス利用も選択肢の中にいれ面談やアドバイス行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話を大切にして、敬意を常に持ち介護させていただいています。なんでも職員がするのではなく、出来ることは少しでもして頂くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様から提案があり、毎日食事介助に来て下さる家族もおられます。また、バーベキュウ大会を企画、お手伝いをして下さった家族もおられます。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人・知人の面会や手紙、電話などの連絡を支援している。ご家族や本人などからなじみの関係をお聞きするようにしている。	昔ながらの友人や、家族親戚と電話や手紙連絡したり、訪問時にはゆっくりと過ごしてもらえるように配慮している。また家族の協力で以前の住居へ出かけ、近所の家で過ごされることもある。ホームの相談室をお貸ししての利用者の誕生会では、家族や久々に兄弟が揃ったと喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルを囲んだり一つの輪になっていただいたりして、全員参加して会話や風船バレーなどをし、だれだれさん、と名前を頻繁に呼び合うようにしてコミュニケーションを取るようにしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方のお見舞いに行ったり電話で連絡を取ったりと可能な範囲で関係大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアやかかわりから、一人一人の意向を把握するようにしています。できることはすぐに取り入れ、問題と思えることは、どうすれば本人様にとって良い方向に向かうかを職員間で検討しています。	日々の関わりの中で一人ひとりを把握し、表現困難な場合、安静・行動・動作など注視し、声かけをして様子を見て思いの把握に努めている。また、意識的に選択の場面を作り、利用者が思いや希望を言えるように配慮している。把握した事柄は申し送りノートで共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からお聞きした事を申し送りノートに書いたり、新しい職員には口頭で伝えていったりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状の把握が出来ないと、十分なケアはできないので、職員一人一人はそれぞれの視点で把握に努めています。又、それを共有するようにも努めています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や必要な関係者の方にカンファレンスに参加していただく事は現状ではできていませんが、意見やアイディアを個々にお聞きして取り入れ現状に即した介護計画を作成しています。	サービス提供書や個別に話し合った家族や関係者意見が反映されたケアカンファレンスを開催し、日々の気付きを書いたモニタリングと丁寧な評価がなされている。それらを基にユニット会議で話し合い、現実的な計画作成に集約されている。また2～4ヶ月に一度見直されている。	丁寧なモニタリングや評価が、見直しの際に充分に反映されず、介護計画の変更に至っていないものがあります。今後は、再アセスメントにそって計画の変更ができるような取り組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、水分チェック表、食事摂取表、バイタルチェック表、介護支援記録、実践記録等から利用者の状態をつかみケアをしています。例えば、水分摂取が少ない方には、特に注意をして飲んでいただいたりしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の病院への受診の支援、外出・外食の支援、家族に代わる買い物の支援などをしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの前の畑のお世話をされる方との挨拶や会話、野菜の成長を楽しむ事を、一緒にしたり、恵まれた自然の中で外気浴や散歩を一緒にしたり、近くの小学校での敬老会に一緒に参加させていただいたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じ、かかりつけ医とセンターの協力病院と利用していただいています。居力病院は月に二回往診していただいています。	月2回連携病院の内科・歯科の往診がある。以前からのかかりつけ医に通院の場合は、家族と職員が同行し日常の様子を伝える等連携を図っている。また、眼科や認知症専門医の通院支援をしている。24時間緊急受け入れ協力病院の看護師とも連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場には看護職はいないため、月に二回の往診と必要に応じ電話で相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に足を運び利用者の状態を把握し、病院関係者と話し合いをして、出来るような状態であれば、利用者の早期退院を促している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議で協力病院の相談員の方に来ていただき、終末期について話し合うなど専門職の方、家族様とともに話し合いしている。	入居時やその後も機会がある度に家族と話し合いを持っている。運営推進会議で終末期について協力病院の相談員が参加して家族との意見交換している。職員は研修に参加して情報を得る等、ホームとしてはできる限りの受け入れはしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを常時見える所に貼っている。訓練も全ての職員が参加できるいるわけではないので、全員が実践力を身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に来ていただき、消防避難訓練を行って、利用者を避難できるように当日の職員で行っている。地域の方にもホームの状況を知って頂き協力をお願いしている。	消防署の協力での消防訓練やホーム独自の訓練も行い避難時間を計測している。スプリンクラー定期点検、消火器置き場や使用方法の周知し、さらに地域の消防訓練に参加した際には、協力を得られるよう依頼している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人の人として、又人生の大先輩として敬う気持ちを常に持ち、言葉かけや対応をしている。できていない職員がいれば、注意するようにしている。	利用者の尊厳への意識を持ち高めるよう、朝礼や全体会議で原点への立ち戻りを繰り返し話し合っている。言葉遣いは職員同士も丁寧であり、気付いたときはお互いにその都度注意し合っている。またトイレ・入浴・居室入室時等、誇りやプライバシーに充分配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言われることされることに対し、肯定的に捉え何でも受け容れられる雰囲気を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思いを言ってくださる利用者に対しては、希望に添って支援させていただいています。思いを言われない利用者には洞察や傾聴により希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と一緒に好みや季節に合った洋服やアクセサリーを選んで頂く。自分で決めることが出来ない利用者は職員が毎日同じ洋服を着ていただかないよう、清潔で個性の発揮できる服装をしていただくよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のご馳走を話題に食事に関心を引き出し野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳の手伝いをして頂き、全員そろって楽しい会話の中で食事をしている。食事介助の必要な方には介助をさせていただく。	ユニットごとに好みに応じた献立で、できる方と一緒に調理し、野菜が主な健康的な食事を職員と共にしている。ホームの畑で収穫した新鮮野菜が食卓へ上がる時もあり、季節感や楽しみも充実している。器と盛り付けの工夫で量や形態を調整し健康維持にも努めている。利用者の状態に合わせた別メニューの提供もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日記録することにより摂取量を把握し、一人ひとりの状態に応じて他の物をお出ししたり、飲食の介助をせていただいたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口に食べかすをためられる方の口腔ケアは毎食後しています。その他の方は起床時と夕食後しています。		

嵯峨野ケアセンターそよ風 （1F）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄のタイミングを把握したトイレ介助を行っています。それにより、オムツの量も減り清潔も保たれています。	自立も含め全ての利用者の排泄チェック表を付け、リズムパターンとサインを把握し、早めの対応で自然な排泄へ導いている。オムツやリハビリパンツから布パンツのみへの自立支援も行い、利用者のステップアップ、職員の達成感へつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常には、水分やヨーグルトや食物繊維の多いものを食べていただくようにし、できるだけ薬に頼らない排便コントロールを心がけています。3日ほど排便が無いときは、医師の指示の下、ラキソ・マグミットなど個々に合った下剤を飲んでいただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間をゆっくりとり、会話を楽しみながら安らぎのある時間を過ごしていただいている。	午前午後と希望に応じた時間帯で隔日に自分のペースでゆっくり入浴してもらっている。湯温湯量も好みに合わせて、柚子風呂やバラ風呂なども楽しんでもらう工夫もされており喜ばれでいる。利用者の状態に応じ二人介助での入浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠そうだったりしんどそうだったら臥床や休息をしていただく。夜間は清潔な寝具で温かく静かに眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の情報を職員全員が読み、捺印をすることにより、副作用、用法、用量についての確認に努めている、又、利用者様の様子にも注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好みをつかみ、現在、歌・英会話・散歩・ハーモニカ・喫煙・本・百人一首・習字などの支援をしたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添ってというのは難しいが、ホームの外周の散歩や外気浴は毎日出来るよう支援している。普段行けないような場所は個人レクで外出し楽しい時間を過ごして頂けるように努めている。	ホーム外周散歩、洗濯物干しや掃き掃除など生活の中で自然な外出や外気浴が日課となっている。車椅子でも近所の和菓子屋への買い物や御神輿を見に行く等楽しみのある外出を支援し、希望に添ってドライブや外食など個人対応もしている。	

嵯峨野ケアセンターそよ風 （1F）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは　お金を使うことはないですが、財布にお金を入れて常にポケットに入れて持ち歩かれることや、バッグの中の財布にお金をいれ時々確認されるのを見守ったり、買い物で外出した際にはお金を使われるのを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話で話せるように、つないだり取り次いだりの支援はしている。手紙は来た時にはお渡しして読んで頂いている。こちらから返事を出す支援もしたいと思っているが出来てない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・洗面所には季節の花を飾りその花を話題に会話をする。好きなTV、好きなCDをコーヒーを飲みながらゆっくりと、程よい音量で聴いていただいている。換気に気を付けて窓を日に何回かは開ける。	木材を使用し落ち着いたリビングに対面式のオープンキッチン、広い窓辺には利用者も世話する金魚や小鳥、家族持参のコケ玉が置いてあり、大文字や嵯峨野の四季の彩と合い間っている。廊下の図書コーナーは診察の際に待ち合い場所となり、傍らの椅子での心地よく居眠りされている。京都らしい飾りも静かな時と共に利用者の心を和ましている。	廊下の突き当たりに小窓があり、一人のんびりする場所の確保として椅子等を配置されてはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたりし、それぞれの思いに合ったところに座っていただくようにしている。時には一つのテーブルを囲んで座ってお話していただいたり、静かにゆっくりしていただいたり変化をもっていただくようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や機会を捉えて家族になじみの家具などがあれば持って来ていただくようにお願いしています。ご本人の昔の写真や家族の写真を持て来て頂きそれを見ながら会話をしています。	持参した馴染みの家具を利用し、ベッド上で過ごすことが多い人には窓際で景色が見えるよう、歩行が不安定な人は家具をつたって移動できるよう配置を工夫している。家族の写真に笑顔の出る人は多くの写真を飾り、利用者の好みを尊重し安全や清潔、居心地の良い居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を家族様、本人様との協力のもと家具の配置をしたり、共有部分も必要に応じてトイレの看板をつくるなど工夫行っています。		